

[okazaki\_25]

活動タイトル	浦河町教育委員会 成人大学講座で講演「地球温暖化と私たちの暮らし」
実施日	2008年2月29日
場所	(浦河町)
対象数	25人
内容	<p>浦河町の教育委員会社会教育課が主催する成人大学講座でお話ししてきました。今回の講座は、町内の大黒座という映画館での「北極のナヌー」の上映(2/16~29)と関連づけた企画。大黒座は、大正7年にできた映画館で、48席の一つ一つにお座布団が敷いてあります。</p> <p>札幌からバスで3時間半。講演の前に、映画を観てきました。「北極のナヌー」は、ナショナルジオグラフィック社が作った映画で、10年の歳月をかけて撮った映像はすばらしく、自然の営みの厳しさや不思議を淡々と伝えていました。</p> <p>映画と講座をうまく連動させた企画で、講座の参加者も、2/3ほどは、映画を観た方達でした。講座の内容としては、北極の氷や世界の氷河の減少を示し、温暖化の影響・しくみ、どの程度の温室効果ガス削減の必要性などを、パワーポイントを使って、紙芝居的に進めていくというものです。温暖化と私たちの暮らしの関係や、家庭でできる取り組み、それだけでなく、皆の取り組みが生きるためのしくみの重要性などもお話ししました。</p> <p>参加者の方は、皆さん、熱心にうなづきながらお話を聞いてくださっていました。そのあとの質問には、「温暖化や二酸化炭素というのは、目に見えないことで、取り組みの成果が見えない。効果を上げている事例はないか？」という鋭いものがありました。</p> <p>それに対して、次のように答えて、講座を修了しました。</p> <p>影響や成果を目に見える形で知らせるといのは、とても大事なことで、他の地域でも、いろいろ工夫がされています。この活動をずっとやってきて私が感じるのは、若い人たちの間にも、マイ箸やマイバッグ、マイ水筒など、エコな実践がひろがっていること。</p> <p>また、成果を目に見えるようにという取り組みでは、例えば、札幌市では、市民に、エコ行動を呼びかけ、その参加者の削減量にあわせて植樹をしようと計画している。植樹の数や面積で、市民の取り組みが実感され、実際の二酸化炭素吸収の効果もあるというものです。浦河町でも、ぜひ、いろいろな取り組みを実施し、教えて欲しい。私は、それを、他の所に伝えて、取り組みを広げていきたいと思えます。</p> <p>今回の講座は、浦河町の教育委員会の担当者の方が、日高支庁に講師の紹介の相談をして実現したとのこと。温暖化の現状や省エネの取り組みについてお話するだけでなく、地域の様子を教えていただき、それを他の地域に伝える、というのも、推進員の大事な役割だなあ、と実感した今回の講座でした。</p>

実施写真等